

## ビジョン・ステートメント

IASSW の候補者として、私は社会福祉教育がますますデジタル化する世界の複雑さを受け入れつつ、人間の尊厳と社会正義という核心的価値に忠実であり続ける、変革的な未来のために働くことを提案します。

データ資本主義が支配する時代において、デジタル格差が新たな社会的排除を生み出しています。社会福祉教育は、対人支援を中心とする実践へのコミットメントを維持しながら、新たな課題に対応しなければなりません。私たちの専門職は、技術の進歩が人間の脆弱性に影響を与える重大な交差点に立っています。これは、教育と実践の両面で革新的なアプローチを開発することを私たちに求めています。

デジタル・ソーシャルワークを教育に統合することは不可欠です。将来のソーシャルワーカーがデジタル空間を適切に扱い、技術システムが社会福祉に与える深い影響を理解できるよう準備する必要があります。これには、人工知能（AI）やアルゴリズムによる意思決定が脆弱な人々にどのように影響を与えるかについての批判的意識を育むことも含まれます。

社会福祉実践におけるテクノロジー利用研究は、教育枠組みの基盤です。デジタルツールはサービス提供を向上させる可能性があります、潜在的なリスクや倫理的課題を見失ってはなりません。AI が意思決定を支援する方法を探りつつ、人間の判断と共感が常に中心にあるようにすることが重要です。

デジタル脆弱性は社会福祉実践における新たなフロンティアです。サイバーブリングからデジタル除外、アルゴリズム差別、データプライバシーの問題まで、私たちの専門職はこれらの課題に取り組むための枠組みを構築する必要があります。学生たちがデジタル正義を擁護し、ますますデジタル化する世界をクライアントが生き抜けるよう支援できる知識と技能を備えることが重要です。

この枠組みの中で、私は次を提案します：

- (i) デジタル・ソーシャルワーク教育の国際基準を開発すること
- (ii) 技術開発者とのパートナーシップを促進すること
- (iii) デジタル脆弱性への対応に関する優良事例を共有すること

社会福祉教育の未来は、技術革新と社会福祉専門職としての使命を調和させる私たちの能力にかかっています。

**Chaime Marcuello-Servós**